

第2条 命の尊さ 平和の祈り、命のバトンを守り継ぐ

命と平和の大切さ・尊さを考える68年目の夏がめぐり来て、長与では、今年も「平和のともじび」「平和コンサート」など、様々な行事が行われます。

紛争・テロの相次ぐ世界状況を聞くたびに、平和への道はほど遠く感じられますが、戦争体験を風化させることなく、「平和で安全な町」宣言の決意を守り継いでいくために、ぜひご家族で参加してほしいものです。

本年6月に「13年版自殺対策白書」の決定が報道されました。それによると、'12年の自殺者は15年ぶりに3万人を下回ったそうです。しかし、**若年層の自殺は深刻な状況**で、重点的な対策の強化が必要とされています。'11年調査によると、**20代の死因の47%が自殺**によるものだったそうです。

この「家庭教育10か条」の作成に取り組んでいた頃、長崎でも希望と可能性に満ちた若者の自殺が連続したことがありました。自分の悩みや不安を家族に知られたくない、言いたくないという思いからでしょうか、打ち明けることもできず、様々な葛藤の中で死を選んでしまう、本当に心が痛みます。子どもたちは、家族だけでなく、地域や国にとっても宝であり希望です。**子どもの存在こそが未来を照らし、大人の働く力の源となるものだから**です。大人には、子どもたち一人ひとりに、そのことを

伝えていく義務と責任があるのです。

子どもたちが苦しみのどん底にいると感じたときでも決して一人ではなく、自分のことを大切に思い、愛し^{いつく}んでいる家族がすぐそばにいることを感じ取り、思い留ま^{とど}まってほしいのです。

家族から大切に思われている実感が、**自分の命を大切に**する自覚につながり、**周囲の人と支え合い、尊重し合う生き方**を生み出します。

あと3週間ほどすると、子どもたちは2学期が始まります。久しぶりの学校、たくさんの行事にワクワクドキドキしていることでしょう。でも、中には自分の気持ちを重く感じている子どもがいるかもしれません。周りが始業式に向けてソワソワすればするほど、逆にますます重くなっていく、そんな気持ちを抱え込んでいる子どもは、きっと何かサインを出しています。

- ・何となく元気がない、食欲がない。
- ・宿題や学用品の準備になかなか手が付かない。
- ・友人と会ったり話したりするのをおっくうがる。
- ・自分の部屋にひきこもりがちになる。 など

そんな子どもの^{サイン}兆候を敏感に感じ取り、重い気持ちを包みこむ温かさや愛のある言葉をかけてください。

そして、ぜひ平和の尊さ・命の重さについても家族で考え、話し合っていたいただければと思います。

第2条 命の尊さ

かけがえのない
いのち
命を大切に

いのち



自分の命が大切であるという自覚が、家族や友達を思う気持ちにつながります。